別紙様式６

平成22年度　博士課程学位論文要旨

学位論文題名

危機的状況の早期把握ー重症心身障害児の母親と関わる看護師の技術ー

学位の種類：　博士（保健科学）
保健科学研究科 博士課程　保健科学専攻　ライフサイクル看護科学分野
学籍番号　０４６１０３
氏　名：　山本 美智代
（指導教員名：　飯村直子 教授　）

目的

重症心身障害児の母親が抱える悩みや困難を把握する看護師の技術を明らかにする.

方法

看護師としての臨床経験が10年以上で，障害児の看護経験が３年以上の看護師に，母親の悩みや困難を把握する際の印象に残った経験について半構成的インタビュー調査を実施した．分析では，データを内容によって切片化し，切片ごとにプロパティとディメンションを抽出しながら切片名をつけ，類似した切片を一つのカテゴリーにまとめて概念を把握した．さらに，抽出したカテゴリーをパラダイムにあてはめることで現象を把握した.

結果

インタビューを実施した看護師は19名であり，年齢は31～56歳，臨床経験は10～32年，その内の障害児看護の経験年数は3～32年であった.

分析の結果，重症心身障害児の母親の《口にしない辛さ》に働きかけ，《辛い思いの打ち明け》に導く【危機的状況の早期把握】という現象が明らかになった.《口にしない辛さ》の中にある母親に向けられた看護師の技術には，母親が表出する反応を逃さぬように，看護師自身の感受性を母親に向けて高める《感受性を高めた観察》，目の前で捉えた母親の反応と，以前に出会った時の母親の様子などを照らし合わせて心あたりをつける《何かあることの察知》，何かあることを察知した看護師が，今ここで母親の気持ちを聞くのか否かタイミングを判断する《関わり方の判断》という看護師の五感を用いた技術があった．さらに，その状態から一歩進んだ時には，看護師は母親との距離を縮め，母親の生活上の負担がなるべく軽減するように関わり，両者の相互作用による《気持ちが語られる関わり》を通して，母親の《辛い思いの打ち明け》が導かれた.

考察

重症心身障害児の育児を行う母親を対象とした先行研究では，不安や不確かさを抱きながら障害児を育てている母親は，外出困難な状況のために周囲から孤立しやすく，心身ともに疲れ果てバランスを崩しやすいことが明らかになっている.

そのような状況にある母親が子どもの診察や入院で医療機関を訪れた際に，看護師は子どもと母親から発するサインにいち早く気づき，心あたりをつけて，関わるタイミングを図っていた．さらに，母親との相互作用による《気持ちが語られる関わり》を通して，辛い思いを引き出していた．これは，看護師が常に子どもと母親の状況をよく知り，対等な立場に身を置き，母親の大変さを想定してひとつひとつ手段を講じることで，何を話しても大丈夫という信頼を母親から得ていたからであり，これに対して看護師もまた，母親が自ら辛い思いを打ち明けてくるのを信じて待つことができたと考えられた．このような母親から信頼される一連の看護師の関わりが，母親の危機的状況を早期に把握する看護技術であった.